

(七) 上人の遺物

尾張尾崎村藥師堂所藏

一、白蓮五重阿彌陀佛尊像 一 軀

附大伏鉦、茶湯箸

一、同緣起掛物 一 軸

一、西親尊躰前への書信 一 通

一、阿彌陀佛尊像副書 一 通

尾崎村脇田隆氏所藏

一、宮様御眞筆御名号(拜領品) 一 軸

一、口宣薄墨紙三段繼掛物 一 軸

一、箱入御謄旨并御文 一 箱

一、肖像掛物 一 軸

一、全副書 一 通

一、過去帳 一 冊

扉は尊起法親王御筆御名号

一、上人の署書

一、御請甲上候書付

一通

(1) 西洋謾草

一冊

(2) 安政二卯年参宮並所々巡拜日記

一冊

(3) 華頂宮家細見

一冊

(4) 奇法隨筆

一冊

(5) 留別章

一通

(6) 心得之事(切支丹)

一 上人の書簡

慶應二年(石摺付)

一通

明治二年

一通

明治四年

一通

明治五年

一通

明治六年

二通

明治七年

一通

明治八年

二通

一 其他

(1) 漢籍

數冊

(2) 醫書

數冊

(3) 佛書

數冊

熊本縣天草島の分

(1) 杜掌田代高俊氏所藏

一 女大學(自筆寫本) 一冊

一 天草郡村盡(全) 一冊

一 日本國盡の文 一冊

一 手本 數冊

一 御尋 = 付申上候口上覺一通

一 里長用心

一 大阪狀 (全)

一 易經 一冊

一 大硯 二冊

(2) 赤尾岩太郎氏所藏

一 証文

一 衣裳單笥

數通

一 棹

一 木皿

其他二三

一。枚

(3) 信福寺所藏

一 山門の額面

一 自作の經塔

一面

一 基

一 地獄の木首

一個

(4) 魚貫村長尾某所藏

一 珠子

一個

(宮様下賜品)

(5) 久王村^{クウノウ}内^{ウチノ}之^ノ原^{ハラ}基^キ所^所藏^{ゾウ}

一本佛像

一軀

(6) 其他二三

上人の遺物は相當あつたやうであるが、御逝去の後記念分配をされなやうで纏つてゐないのは残念である。

定舜上人年表

(中は重要記事)

天皇
皇紀
年
干支
上
齡

光格
三六二
享和元
醉

重
要
記
事

上人の誕生。(尾張丹羽郡尾崎村)

(細井平洲叔)

二四六二	二 戌壬	二
二四六三	三 亥癸	三
二四六四	文化元 子甲	四
二四六五	二 丑乙	五
二四六六	三 寅丙	六
二四六七	四 卯丁	七

光格 三四六	三六九	三四七〇	三四七一	三四七二	三四七三	三四七四	三四七五	三四七六
文化五 辰	六 巳	七 午	八 未	九 申	一〇 酉	一一 戌	一二 亥	一三 子
八	九	〇	一	二	三	四	五	六

(外國船うち拂の令を下す)

上洛して大泉寺華園月亭和尚に仕ふ、
五月華頂王宮に於て剃髮、即日出仕。

仁孝三三七 文化二四町一七

三三八 文政 元寛 一八

三三九 二祀 一九

三四〇 三辰 二〇

三四一 四巳 二一

三四二 五午 二二

三四三 六未 二三

三四四 七申 二四

三四五 八酉 二五

十一月増上寺教善大僧上の座下に於て五重加行す。

十一月同山騰善大僧正の座下に於て宗戒西脈相承す。

増上寺修行終りて上洛す。

賜香上人の綸命を蒙る。

華頂山に於て迎善大僧正の座下に於て布薩戒相承す。

華頂の王宮へ再勤す。

東府使節として江戸へ下り、江戸城へ登り將軍に謁す。

仁孝
三六
文政九
癸二六

三四七
一〇
癸二七

三四八
一一
癸二八

三四九
一二
癸二九

三四〇
天保元
癸三〇

三四一
二
癸三一

三四二
三
癸三二

三四三
四
癸三三

三四四
五
癸三四

正月住侶昇進。全法眼に叙せらる。

三月石井中納言行宣卿の猶子となる。

正月少僧都に任ぜらる。

十二月大僧都に轉任す。

五月肥後國天草島に調せらる。十月上人の弟子楷定歿す。

西洋護草この年より執筆

兩親へ通信

二月臨川庵を結び移る。

三月長崎より太宰府参詣。北九州巡歴す。

